



元町だより

令和7年度
6月号

令和7年5月30日

「すぐに役立つことはすぐに役立たなくなる」

文京区立認定こども園元町幼稚園
園長 前田 宏子

今年の5月は寒暖の差が激しい月でした。夏日になったり、涼しい日が続いたり、または大雨が降ったりしました。5月らしい気持ちのよい風が吹いている日は子どもたちも元気に園庭を走っていました。少しずつ園の生活に慣れ、自分たちのクラスでの生活も落ち着いてきました。じっくりと遊びに取り組む姿が見られるようになってきました。

さて、幼稚園での遊びはこれから先の生活の基盤になる力をつけます。小・中・高等学校の学習指導要領では3つの資質・能力が提示されています。○知識・技能、○思考力・断力・表現力、○学びに向かう力・人間性の3つが示されています。幼稚園教育要領でもこの3つの資質・能力が基盤となっていますが、知識・技能の基礎、思考力・判断力・表現力の基礎、というように基礎という言葉がついています。幼稚園では知識や技能を教えることを目的とすべきではなく、知識や技能を学ぶために必要な力、自分から学びたいと思う意欲、すぐにできなくても繰り返し取り組もうとする粘り強さ、新しいことを学ぼうと思うチャレンジする気持ちなど 学ぶことの基礎の部分を育てていくことです。学校のように系統立てた勉強をするのではなく、遊びや生活の中で子どもが興味・関心をもって関わることで、その力が育てられていくと考えています。以前読んだ新聞記事に私立灘中・高等学校の国語教師の橋本武さんの言葉が載っていました。「すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなる」と言っています。この言葉を読んで、幼児教育の考え方もベースは同じであると思いました。

幼稚園での生活は自分の興味をもったこと、「やりたい！」と思ったことをできる場所です。先日、小石川後樂園に遠足に行きました。散策の途中でアリの行列を見付けました。「お～いっぱいいる！」「こっちまで歩いてきている！」と子どもたちは大興奮。じっと眺めたい子どもは結構な時間をずっと眺めていました。アリの眺めているうちに、「どこに行くの？」「何をしているの？」と疑問が出てきました。今回は答えがでることはありませんでしたが、皆で口々に話をしながら歩いていました。問いに対しては、答えが出ないこともあります。ここで大事なことは「なぜ？」と思える気持ちです。もしかしたら全然役に立たないことを考えているかもしれません。が、このプロセスこそが大切であると思います。非認知能力と言われる力はこういった直接体験のなかから育てられていきます。今は形になってはいないことが後々の思考力に、後々の判断力に、後々の表現力につながっていきます。

今は何に役立つかは分かりません。しかし、楽しんで取り組んでいることがいずれ、いろいろな力の基礎となります。子どもたちの「楽しい！」のアンテナはいつもピピッと動いています。



カメが日向ぼっこをして
いました。みんなじっ
と見えています。



アリの行列。
「どこ行くの？」
「何匹いるの？」